

全国同様依然として90%を超えているが、歯の保健指導によりう歯の未処置歯のある者は、昭和51年度以降減少の傾向をたどっている（表5-1-4、図5-1-7）。

表5-1-4 う歯被患率

(単位：%)

区分 年度	小学校		中学校		高等学校	
	県	全国	県	全国	県	全国
51	95.0	94.4	91.9	94.1	94.4	95.3
52	93.7	93.7	94.6	93.5	95.2	94.6
53	96.8	94.2	92.1	93.9	95.4	95.1
54	93.0	94.8	92.1	94.5	96.6	95.9
55	94.1	94.0	93.0	93.9	94.3	95.9
56	95.9	93.5	93.4	93.7	96.1	95.7
57	95.6	93.1	94.6	93.0	96.1	95.7
58	94.2	92.6	92.5	93.0	95.0	95.3

注：1. 「学校保健統計調査報告書」（昭51～昭58）による。
2. 小数第2位を四捨五入したものである。

したがって、今後は、児童生徒の疾病・異常を予防するため、臨床医学的検査、定期健康診断後の事後措置の徹底を図るなど、家庭や学校医等との連携を深め、保健教育及び保健管理の充実に努める必要がある。

(3) 学校安全教育及び安全管理

① 学校管理下の災害事故

昭和51年度から昭和58年度までの学校管理下の災害事故発生状況を見ると、小学校では昭54年度からやや増加の傾向にあったが、昭和57年度から急増している。中学校では昭和52年度をピークに、それ以後一時的に発生件数が減少したが、昭和55年度から再び増加の傾向にある。高等学校では、昭和56年度、昭和57年度に、やや増加したものの横ばい状態にある（図5-1-8）。

昭和58年度における災害事故発生状況を場所別、時間別及び原因別に見ると、場所別に

図5-1-6 裸眼視力1.0未満児童生徒の割合の推移

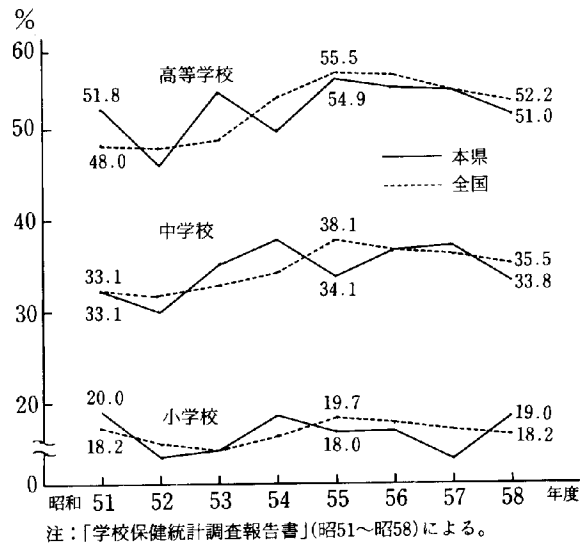


図5-1-7 う歯未処置児童生徒の割合の推移

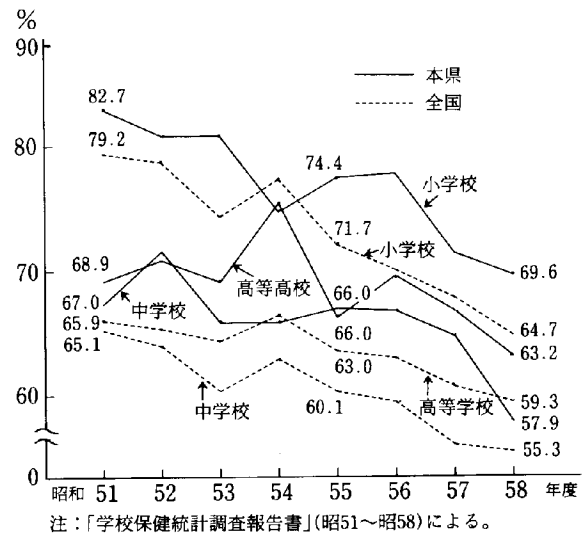


図5-1-8 学校管理下の災害事故発生状況

